

(45)

| | | | | |
|----------|---|---------|---------|---------|
| 氏名(生年月日) | ヒラ 平 | モリ 盛 | カツ 勝 | ヒコ 彦 |
| 本籍 | | | | |
| 学位の種類 | 医学博士 | | | |
| 学位授与の番号 | 乙第859号 | | | |
| 学位授与の日付 | 昭和62年12月11日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者) | | | |
| 学位論文題目 | Major causes of death from acute myocardial infarction in a coronary care unit (CCUに於ける急性心筋梗塞症の主たる死因に関する研究) | | | |
| 論文審査委員 | (主査) 教授 広沢弘七郎 (副査) 教授 高尾 篤良, 教授 石井 哲夫 | | | |

論文内容の要旨

目的

CCUにおける急性心筋梗塞症例の死因を解析し、救命率向上のための課題を明らかにする。

対象および方法

昭和52年10月から昭和60年12月の間にCCUへ入院した急性心筋梗塞症1,060例を対象とした。

心不全の所見、血行動態諸値および臨床経過から全症例を分類し、院内死亡例の死因を詳細に検討した。心臓死例については、診断基準を設けてその死因を分類し、梗塞後狭心症、壊死巣拡大と再梗塞の有無を検討した。

結果

キリップ分類の1, 2, 3, 4型別の死亡率は順に4.4%, 14.2%, 17.6%, 86.6%であった。

死亡は158例(14.9%)で、その15例が脳卒中などの非心臓死、143例が心臓死であった。心臓死は不整脈死7例、心室自由壁破裂死20例、心室中隔穿孔死6例、急性期外科手術後の死亡10例、ポンプ失調死100例であった。キリップ分類別には1型から順に30, 28, 12, 71例であった。梗塞後狭心症、壊死巣の拡大または再梗塞を来した例は43例であった。

心臓死143例の死因をまとめると、1)入院時からの心原性ショック71例(49.7%)、2)入院時はキリップの1, 2型で、その後に再梗塞、壊死巣拡大、狭心症があって死亡に至ったもの27例(18.9%)、3)入院時はキリップ1, 2型で心破裂死したもの23例(16.1%)、

4)その他22例(15.4%)であった。

考案

1962年、急性心筋梗塞症治療へのCCU導入以来、最大の死因であった不整脈死は殆んど消失し、現在は心原性ショック、次いで心破裂が主な主因とされている。本研究の結果、死亡例の41%が入院時は予後良好と思われたキリップ1, 2型の例であり、心破裂または壊死巣拡大の結果心原性ショックや治療抵抗性不整脈を生じて死亡することが判明した。CCUにおける急性心筋梗塞症例の主な死因は心原性ショックと再梗塞と心破裂である。

これらの病態の成立機序の詳細は未だ不明であり、今後の追究が急務である。また、急速に普及しつつある冠動脈内血栓溶解療法や補助人工心臓などの新しい治療法は、現在の治療の限界を示すこれらの病態に救命的効果を及ぼすか否かによって評価されなければならない。

結語

現在のCCUにおける急性心筋梗塞症の主な死因は心原性ショックと再梗塞と心破裂である。その病態の成立機序の究明と、新しい救命的治療法の開発が急務である。

論文審査の要旨

我が国に CCU が創設されてから丁度20年を経過した。この間、急性期心筋梗塞の治療法は地道ながら進歩し急性期死亡率は CCU 以前に比べて約1/2になってきている。本論文はこのような状況下においても尚、比較的軽症と思われた症例の中から、少なからぬ数の者が心破裂、再発、病巣拡大の結果起こる心原性ショック等のために死亡している実情を示し、より新しい治療法の開発の必要性を解いたもので、臨床医学的に価値ある研究であると認める。

主論文公表誌

Major causes of death from acute myocardial infarction in a coronary care unit

(CCU に於ける急性心筋梗塞症の主たる死因に関する研究)

Japanese Circulation Journal Vol. 51 No. 9
1041~1047p (20 Sept., 1987)

副論文公表誌

- 1) ジギタリス中毒例の血中ジギタリス濃度
呼吸と循環 23 (3) 257~261 (1975)
- 2) Rapid, sensitive detection of myoglobinemia by improved counterimmunoelectrophoresis in cases of acute myocardial infarction
(急性心筋梗塞症例に於ける改良免疫電気向流法による迅速かつ高感度の血中ミオグロビン測定法)
Am Heart J 96 (2) 187~190 (1978)

- 3) ペースメーカー・カテーテル電極による右心室穿孔の診断と対策：自験例10例の検討
呼吸と循環 23 (3) 251~255 (1975)
- 4) CPK 流出状況からみた心筋壊死巣の成立過程と梗塞発症時胸痛の持続時間および冠動脈狭窄の関係
呼吸と循環 31 (12) 1323~1331 (1983)
- 5) CCU における心破裂—その危険因子と対策—
ICU と CCU 8 (2) 111~118 (1984)